

下痢・嘔吐の症状のある患者の診療について（外来）

ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行しています。下痢・嘔吐の症状のある場合は、ノロウイルス感染症の可能性があると考えて対応してください。

下痢・嘔吐の症状のある患者への対応

● 接触感染予防策

- ・ 患者に接触する場合は、手袋・エプロン・マスクを着用する
- ・ 診療の前後には必ず手指衛生を実施する
- ・ アルコールはノロウイルスの失活化には効果がないので、石けんと流水による手指衛生を行う（30秒以上かけて洗う）
- ・ 患者から離れる場合はすぐに防護用具を外し、感染性廃棄物に廃棄し、手指衛生を行なう
- ・ 経口感染なので、食事の前には必ず手指衛生を行う

● トイレの使用

- ・ 可能であれば使用毎に、トイレの便座や高頻度手指接触面（ドアノブなど）を0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウム※にて清拭消毒を行う
- ・ 患者には特に手指衛生の徹底を指導する
- ・ ポータブルトイレを使用した場合は使用毎に洗浄後、0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウム※にて消毒する

● 吐物や排泄物による汚染の処理

- ・ 吐物や排泄物の処理をする場合は、マスク、手袋、エプロンを着用する。
- ・ 吐物や排泄物はペーパータオルで拭き取り、ビニール袋に密閉して、蓋付きのゴミ箱に廃棄する。
- ・ 吐物や排泄物を除去してから0.05～0.1%次亜塩素酸ナトリウム※で清拭消毒する

● 診察終了後

- ・ 診察台のディスプレイを交換する
- ・ 環境消毒には、0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウム※にて清拭消毒を行う（錆が懸念される機器類は次亜塩素酸ナトリウムで清拭消毒後、水拭きを行う）

➤ ノロウイルスの潜伏期間は24～48時間であるので、接触者の症状に注意する。

下痢・嘔吐の症状のある患者の診療について（入院）

ノロウイルスによる感染性胃腸炎が流行しています。下痢・嘔吐の症状のある場合は、ノロウイルス感染症の可能性があると考えて対応してください。

入院患者様で外泊や外出から帰院された方には、症状の有無を確認し、その後の症状の出現に注意してください。

下痢・嘔吐の症状のある患者への対応

- **患者隔離**
 - ・ 原則として個室に入室する
 - ・ トイレ付きが望ましいが無理な場合はポータブルトイレを使用し、他の患者とトイレで交差のないようにする
 - **接触感染予防策**
 - ・ 患者に接触する場合は、手袋・エプロン・マスクを着用する
 - ・ 診療の前後には必ず手指衛生を実施する
 - ・ アルコールはノロウイルスの失活化には効果がないので、石けんと流水による手指衛生を行う（30秒以上かけて洗う）
 - ・ 患者から離れる場合はすぐに防護用具を外し、感染性廃棄物に廃棄し、手指衛生を行なう
 - ・ 経口感染なので、食事や経管栄養を扱う場合にも必ず手指衛生を行う
 - ・ 経口感染なので、食事の前には必ず手指衛生を行う
 - **トイレの使用**
 - ・ ポータブルトイレは使用毎に洗浄後、0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウムにて、30分以上の浸漬消毒する
 - ・ 他患者と共有トイレを使用した場合は、使用毎に、トイレの便座や高頻度手指接触面（ドアノブなど）を0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウムにて、清拭消毒を行う
 - ・ 患者には特に手指衛生の徹底を指導する
 - **吐物や排泄物による汚染の処理**
 - ・ 吐物や排泄物の処理をする場合は、マスク、手袋、エプロンを着用する
 - ・ 吐物や排泄物を除去してから0.05～0.1%次亜塩素酸ナトリウムで清拭消毒する
 - **患者周囲環境**
 - ・ 環境整備には、0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウムにて清拭消毒を行う（錆が懸念される機器類は次亜塩素酸ナトリウムで清拭消毒後、水拭きを行う）
 - **リネン類**
 - ・ 病院のリネン類は白いビニール袋に入れて業者に提出する
 - **器材類**
 - ・ 通常と同じでよい
 - **退院時**
 - ・ 退院時の特別清掃（念入り清掃）を依頼する。その時、環境の清拭にはエタノールではなく、0.02～0.05%次亜塩素酸ナトリウムでの清拭消毒を依頼する。
- ノロウイルスの場合、症状消失後1週間はウイルスを排出するので、症状が治まっても上記対応を最低1週間は継続する。
- ノロウイルスの潜伏期間は24～48時間であるので、接触者の症状に注意する。